

令和7年度 第9回 豊田市稻武地域会議全体会 会議録

- 日 時 令和7年12月18日（木）午後7時00分～8時00分
- 場 所 稲武支所 団体会議室
- 出席者 委員：安藤直人、今泉喜規、佐々木祐次、高崎太一郎、塚田孝弘、
土本隆雄、土山富衣、西尾昌直、深見友和、三江元博、宮島明菜
(欠席者)：石橋佳子、海野浩、中拓二
事務局：渡辺支所長、岡部副支所長、柄澤副主幹、鈴木担当長、原田主査

■次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 前回の会議の振り返り
 - (2) 「子どもの見守り・居場所」の具体的イメージ
 - ①どのような居場所にするのか
 - ②人材確保の手段、手法
- 4 その他

■議事（要約）

- 3 協議事項
 - (1) 前回の会議の振り返り
事務局より、前回会議で出された意見を説明。

(2) 「子どもの見守り・居場所」の具体的イメージ

- ①どのような居場所にするのか

グループワークでの検討後、全体の協議において、次のような内容で居場所を考えていく事を共有。

- ・居場所の方向性は、放課後児童クラブのような「預かり」ではなく、子どもの居場所づくり事業（現：シルバー人材センター受託）のような「見守り」。
- ・「見守り」の際、大枠のプログラム（時間割）があると良い。

各グループの検討で出された意見は次のとおり。

«グループ1»

- ・子どもの居場所づくり事業は、子どもの時間に合わせて勤務してもらっているため、金銭以外のサポートが必要。逆に金銭のサポートがあると責任を求められているように感じる人もいる。
- ・「預かり」は地域内での有資格者の確保が難しい。外部に委ねるのは現実的ではない。

«グループ2»

- ・「預かり」は、人材確保や保護者の費用負担でもハードルが上がる。
- ・自由に過ごす時間はあっても良いが、折角、子ども達が集まっているので、まとまって動けるようなプログラムが大枠でもあると良い。
- ・場所が今のふれあい子ども館では狭い。広い場所があると良い。

②人材確保の手段、手法

各グループの検討で出された意見は次のとおり。

«グループ1»

- ・人材は基本的にシルバー人材センターで確保。
- ・プログラムを組む時は別で手当てを出す。費用は行政の支援を想定。
- ・地域の方に声掛けしてプログラムで稻武太鼓の演奏を教えたい。
- ・料理教室などはどんぐり工房を活用してはどうか。

«グループ2»

- ・多年代の子どもが集まれば、年上の子が年下の子を見るなど、思いやりが生まれる。
- ・見守る人には特別なスキルは要らない。基本、責任は見守る人に負わせない。自己責任であることを保護者にも周知。
- ・見守り人材で、教員を目指す学生や「いなぶラボ」に来てくれている豊田高専の学生に声をかけてはどうか。